

## 本講義資料のご利用にあたって

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

著作権が東京大学の教員等に帰属する著作物については、非営利かつ教育的な目的に限り再利用することができます。

ご利用にあたっては、以下のクレジットを明記してください。

クレジット：

UTokyo Online Education 学術フロンティア講義 2023 安田洋祐





OSAKA UNIVERSITY

# 資本主義と空気の価値

## 市場・国家・社会的共通資本

2023年度 学術フロンティア講義「30年後の世界へ」(第3講)

安田洋祐

大阪大学経済学部 教授

Eメール: [yosuke.yasuda@gmail.com](mailto:yosuke.yasuda@gmail.com)

ウェブ: <https://yagena.github.io/>

2023年4月

LIVE LOCALLY,  
GROW GLOBALLY

# 本日の講演の流れ

---

1. イントロダクション

2. 資本主義の危機！？

3. 社会的共通資本

4. シン・コモンズ？

# Topic 1

# イントロダクション

# 安田洋祐（やすだようすけ）

- 1980年 東京都生まれ
- 2002年 東京大学経済学部卒業  
(大内兵衛賞、卒業生総代)
- 2007年 プリンストン大学Ph.D.
- 2007年 政策研究大学院大学 助教授
- 2014年 大阪大学経済学部 准教授
- 2022年 大阪大学経済学部 教授
  
- 研究領域
  - ゲーム理論、マーケットデザイン
- マスメディアを通じた情報発信や、  
政府系委員活動にも取り組んでいる



# 安田洋祐（やすだようすけ）

- 2020年 株式会社エコノミクスデザイン（EDI）を共同で創業！

経済学のビジネス活用

- 法人向けコンサルティングサービス
- オンライン講座：The Night School
  - 経済学という「武器を配る」



## テレビ出演

- 関西テレビ「newsランナー」
- フジテレビ「とくダネ！」
- 読売テレビ「ミヤネ屋」
- テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」
- Eテレ「オイコノミア」
- NHK BS1「欲望の資本主義」シリーズ など多数

## 政府系委員会

- 環境省「カーボンプライシングの活用に関する小委員会」
- 経済産業省「GXリーグにおける排出量取引に関する学識有識者検討会」
- 総務省「情報通信経済研究会」「Web3時代に向けたメタバース等の利活用に関する研究会」
- 内閣府「国家戦略特区ワーキンググループ」

# 30年後の世界へ

## —空気はいかに価値化されるべきか

### 第3講 「資本主義と空気の価値～市場・国家・社会的共通資本～」

- きれいな空気には価値がある。
- ただ、空気をきれいにしてもその活動から得られる個人的な見返りは少なく、空気を汚しても罰を受けることはほとんどない。
- 資本主義社会において、「市場の失敗」と呼ばれるこの厄介な問題にどう立ち向かえばよいのか。
- 市場の創出(カーボンプライシング)や国家の直接介入という代表的な“解決策”に加えて、当事者が「社会的共通資本」として空気の価値を自発的に守る第三の道を考えてみたい。

# 資本主義経済における様々な問題

## 市場の失敗

- 不完全競争
  - プラットフォーム独占・寡占
- 非対称情報
  - 製品／サービスの安全性
- (負の)外部性
  - 温室効果ガスの排出
- 公共財
  - 社会インフラなど

## それ以外の問題

- 財政の持続可能性
- 経済格差の拡大
- 人間関係の希薄化
- 文化・伝統の喪失
- お金に支配される

⇒ 資本主義はオワコン！？



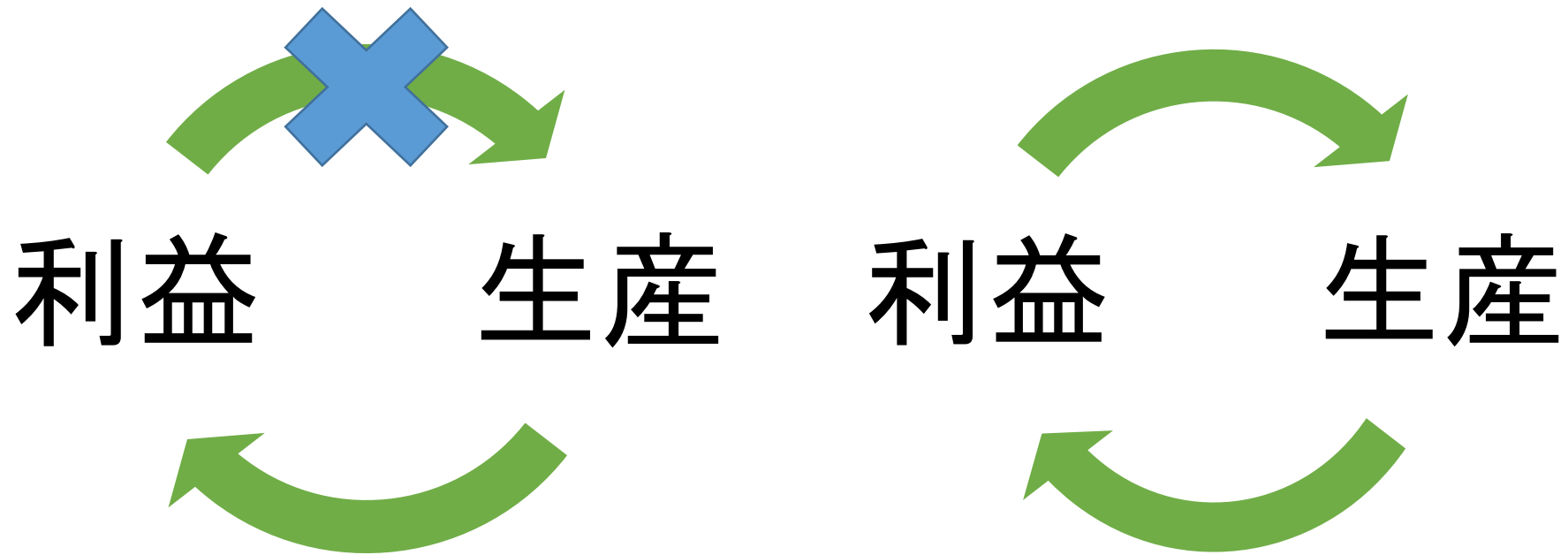
## Topic 2

# 資本主義の危機！？

# イズム(主義)としての資本主義

Wealth (死蔵)

Capital (再投資)

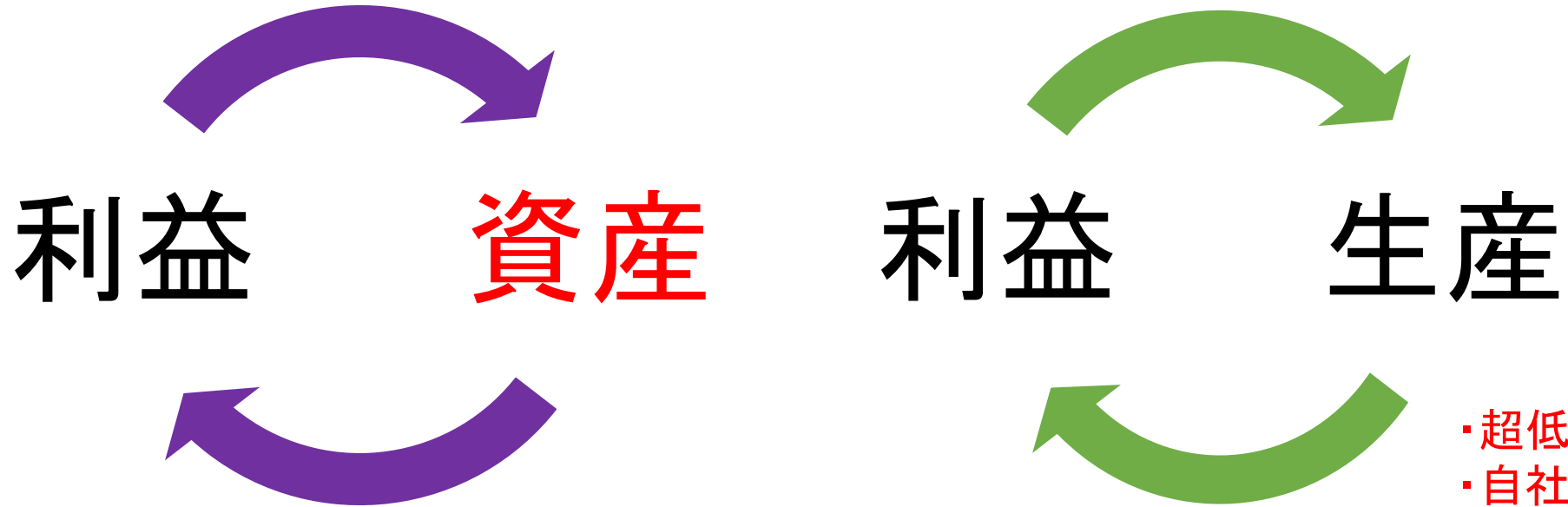


資本“主義”の定義 (by ハラリ『サピエンス全史』)  
→ 利益は生産活動に(再)投資される“べき”

# 投資ではなく投機にWealthがまわる

Speculation (投機)

Capital (再投資)



生産活動を伴わない投機市場が大きくなる  
→バブルの発生!?

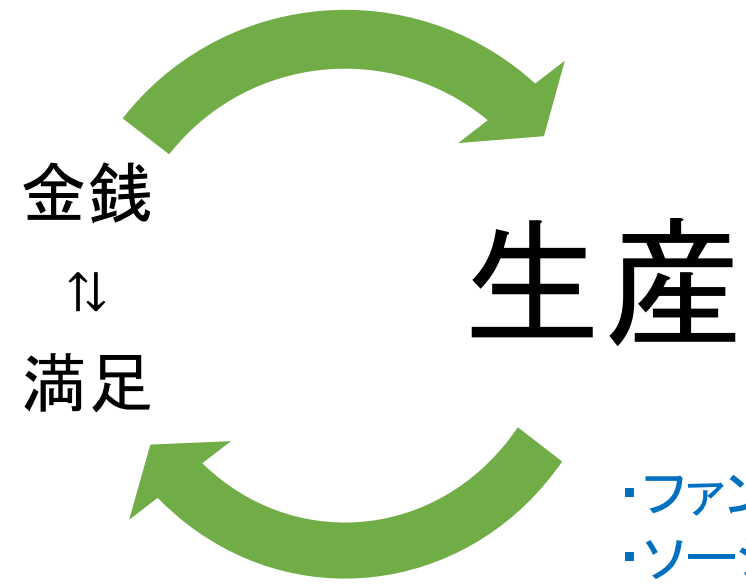
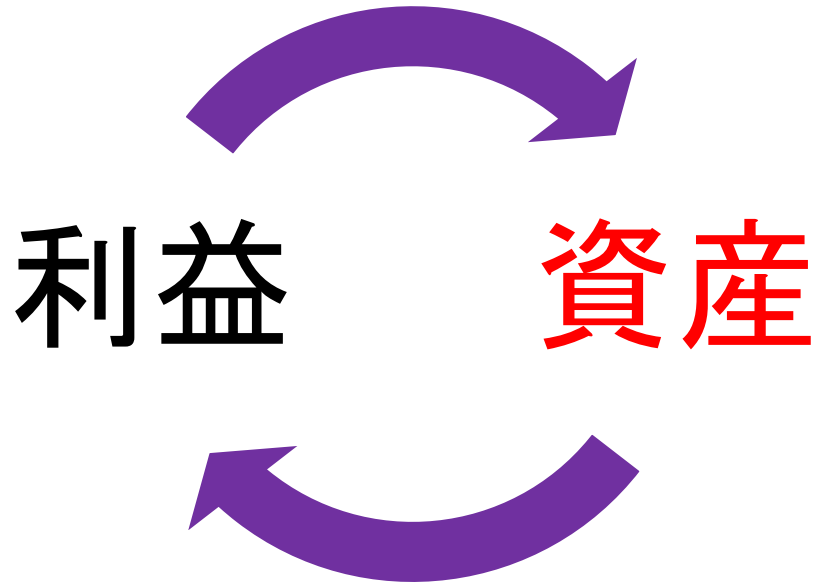
- ・超低金利
- ・自社株買い
- ・内部留保

↓  
資本主義の危機! ?

# “消費”型投資が資本主義を救う！？

Speculation (投機)

“消費”型投資



金銭以外のリターンを期待する投資が増えると...  
→ SpeculationやWealthがCapitalに！

- ・ファンエコノミー
- ・ソーシャルインパクト
- ・クラウドファンディング

↓  
新しい資本主義！？

# システム（制度）としての資本主義

- 私的所有 ← 誰のもの？
  - ⇔ 公的機関、再分配、免許・規制
- 利潤動機 ← 何のため？
  - ⇔ シェア最大化、CSR、三方よし
- 市場経済 ← どこで？
  - ⇔ 組織、家族、地域共同体

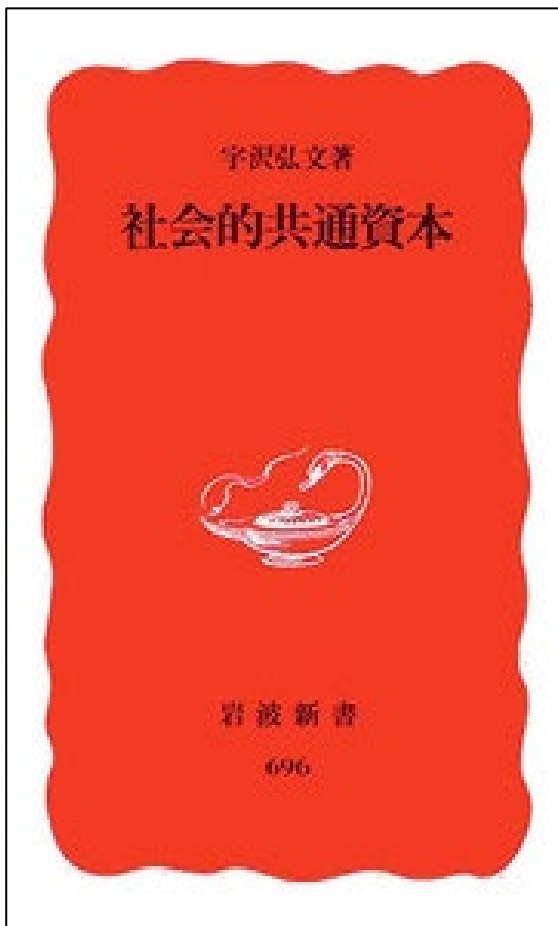
# 資本主義のアップデート

- 私的所有 ← 誰のもの？
  - ⇔ 公的機関、再分配、免許・規制
  - ⇒ ベーシックインカム、電波入札、共有経済
- 利潤動機 ← 何のため？
  - ⇔ シェア最大化、CSR、三方よし
  - ⇒ クラウドファンディング、SDGs、パーパス経営
- 市場経済 ← どこで？
  - ⇔ 組織、家族、共同体、社会的共通資本
  - ⇒ トークン、メタバース、DAO(自立分散型組織)

## Topic 3

# 社会的共通資本

# 宇沢弘文氏の「社会的共通資本」



宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書(2000)

“すべての人びとが、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力のある社会の安定的な維持を可能にする自然環境と社会的装置”

参照: 宇沢弘文『社会的共通資本』岩波新書(2000)

- 自然環境
  - 大気、水、森林、河川など
- 社会的インフラストラクチャー
  - 道路、交通機関、上下水道など
- 制度資本
  - 教育、医療、金融など



# 公共財の分類

	競合する	競合しない
排除できる	私的財	クラブ財
排除できない	コモンズ (コモンプール財)	(純粹)公共財

- コモンズは広義の公共財(準公共財)
- 消費が競合 & 利用を排除できない

# 代表的な経済理論

	競合する	競合しない
排除できる	見えざる手 アダム・スミス	アイデア ポール・ローマー
排除できない	共有地の悲劇 ハーディン	公共財の理論 サミュエルソン

- コモンズはこのままでは維持できない  
⇒ どうやって解決すれば良いのか？

# コモンズの“解決策”

		競合する	競合しない	競合性
排除性	排除できる	私的財 ①	クラブ財 ②	
	排除できない	コモンズ	(純粹)公共財	⇐ 非排除的 & 非競合的

- 共有資源の乱獲
  - 管理のただ乗り
- ⇒ 「共有地の悲劇」

## 教科書的な解決策

- ① 私的所有権＋民営化（私的財）
- ② 国・自治体による管理（クラブ財）

# 宇沢による批判:「コモンズの悲劇」の悲劇



宇沢弘文『経済解析 展開篇』岩波書店(2003)

(以下は『経済解析:展開編』の286~287頁からの抜粋)

- ハーディン論文は、ある1つの経済学の考え方の流れのなかで受け入れられていった。(中略)「コモンズの悲劇」は、コモンズの所有および利用にかんして、私的所有関係が欠如しているために必然的に起こる現象であるという主張である。
- もし、コモンズの土地、自然資源にかんして、私有化をおこなえば、各個人がそれぞれ私的な利益追求の立場から、合理的、効率的な利用を考え、自然資源の慎重かつ保全的な管理がおこなわれることになるはずである。そのときには、不確実性もなくなり、フリー・ライダーの問題も起こらないであろうというのである。
- コモンズの制度は、所有権が共有化されているため、市場機構がうまく働かず、効率的な資源配分が実現しない。アダム・スミスの「見えざる手」は、コモンズの資源が私有化されたときにはじめて機能する。

# コモンズ ≠ オープンアクセス

- この考え方は、1970年代から1980年代の初めにかけて、多くの経済学者を巻き込んだだけでなく、いわば、時代精神 (Zeitgeist) ともいえる役割をはたした。アメリカのレーガン政権、イギリスのサッチャー政権、そして日本の中曽根政権に共通した政治思想を支えていたのであった。
- しかし、この考え方は、**コモンズとオープン・アクセスとの区別について、完全な誤解**にもとづいている。オープン・アクセスというときには、コモンズの資源をだれでも自由に利用することができることを意味するが、コモンズについては、その資源を利用することができる人は、ある特定の村、地域の人々か、あるいはある特定の職業的、社会的集団に属する人々に限定されている。
- しかも、どのようなルールにしたがって、コモンズの資源を利用するかについてきびしく規定され、またコモンズの維持のために、各構成員がどのようなサービスを提供するかについてくわしく規定されている。**コモンズ**の概念自体が、**オープン・アクセスを否定する**ものであるといってもよいのである。コモンズにかんする所有権と管理の問題は、社会的、文化的、歴史的な条件と密接な関わりをもち、きわめて多様な形態をもっている。

参照: 宇沢弘文『経済解析 展開篇』岩波書店(2003) 286~287頁より抜粋、一部講師強調

# 宇沢の「社会的共通資本」理論

(以下は宇沢弘文『経済解析:展開編』の396～397頁からの抜粋)

- 社会的共通資本の概念は、サミュエルソンの公共財と、つぎの**2つの点で異なる**。
- 第1に、経済を構成する経済主体は、社会的共通資本のサービスをどれだけ使うかを、それぞれの主観的選好関係にもとづいて、最大の効用が得られるように、**主体的に決めることができる**。このとき、各経済主体は、社会的共通資本のサービスに対して、決められた価格にもとづいて使用料金を支払う。
- 第2に、社会的共通資本のサービスにともなって、**混雑がみられる**。すなわち、各経済主体が、社会的共通資本のサービスを使ったときに得られる効用の水準は、その経済主体が使った社会的共通資本のサービスの量に依存するだけでなく、他の経済主体が、同じ社会的共通資本のサービスをどれだけ使っているかにも依存する。

一部講師強調

# 共同体によるコモンズの統治



- Both state control and privatization of resources have been advocated, but **neither the state nor the market have been uniformly successful** in solving common pool resource problems.
- In contrast to the proposition of the tragedy of the commons argument, common pool problems sometimes are **solved by voluntary organizations** rather than by a coercive state.

エリノア・オストロム …… 経済的なガバナンスに関する分析への貢献で2009年にノーベル経済学賞を受賞(女性初！)

エリノア・オストロム著、原田禎夫・齋藤暖生・嶋田大作訳  
『コモンズのガバナンス 人びとの協働と制度の進化』晃洋書房(2022)

2023年4月

安田洋祐 | 大阪大学

22

## Topic 4

# シン・コモンズ？



# 社会的共通資本 ≠ 従来のコモンズ

	完全に競合する	部分的に競合する (混雑・過剰利用)	競合しない
完全に排除できる	私的財 アダム・スミス		クラブ財 ポール・ローマー
部分的に排除可 (長期的関係)		社会的共通資本 (シン・コモンズ) オストロム・宇沢弘文	
排除できない	“コモンズ” ハーディン		公共財 サミュエルソン

解決策③ 「コモンズの統治」 ⇒ 社会的共通資本の理論的土台

# シン・コモنزの特徴

- 部分的に排除可能
  - メンバーがある程度は固定されている
  - 金銭動機だけでなく互恵性・利他性が働く
  - **長期的関係**を通じて協力することができる！  
(← 繰り返しゲームの理論)

キーワードは  
・長期的関係  
・負の外部性

ゲーム理論が貢献  
できる、かも！？

- 部分的に競合する
  - 過剰利用が混雑などの**負の外部性**をもたらす
  - 参加者の厚み・混雑回避・安全性の3つの課題解決が必要！  
(← マーケットデザイン)

# 資本主義とコモンズの比較

	資本主義	コモンズ
誰のもの？	私的所有	共同所有
何のため？	利潤、成長、利己	社会、持続、協力(互惠)
どこで？	市場経済	共同体

# 営利企業・社会的共通資本・DAOの比較

営利企業	社会的共通資本	DAO
私的所有 (組織の境界が <b>厳格</b> )	共同所有 (メンバー資格が <b>厳格</b> )	誰も所有しない (組織の境界が <b>緩い</b> )
利潤、成長、 <b>利己</b>	社会、持続、 <b>協力</b> ( <b>互惠</b> )	トークン、 <b>協力</b> ( <b>利己</b> )
市場経済	地域共同体	ゆるい共同体

# DAOとコモンズの違い

- 協力、共創インセンティブの源泉
  - DAO … トークン(利己) ⇐ コミットメント(スマートコントラクト)
  - コモンズ … 長期的関係(互惠) ⇒ 逸脱者を罰する必要アリ
- メンバーシップ
  - DAO … 参加、離脱がしやすい
  - コモンズ … 地縁などに縛られる
- 組織の活動場所
  - DAO … ヴァーチャル、グローバル
  - コモンズ … リアル、ローカル

# “新しい”ガバナンス？

## 今までの企業像

### • 営利企業

- 目的: 利潤最大化
- 制約: 無し

→ 社会課題が解決できない

### • 公的企業

- 目的: 社会価値最大化
- 制約: 無し

→ 持続可能性／効率性が低い

目的と制約が入れ替わっている！

## 新たな企業像

### • <ESG投資>型

- 目的: 利潤最大化
- 制約: 一定の社会価値  $v$  の実現

→ 注)  $v$  は自分たちで決められない(例: ESG投資)

### • <パーパス経営>型

- 目的: 共通価値  $v^*$  の最大化
- 制約: 一定の利潤の実現

→ 注)  $v^*$  は自分で決めることができる

旧来型の「営利企業」と目的は同じ！  
⇒ 受け入れやすい

# これからの企業の課題

- <ESG投資>型の課題
  - 社会価値  $v$  をどうやって決めるのか？
  - 制約条件をきちんと守らせることができるのか？
- <パーパス経営>型の課題
  - 儲からない、非効率な経営の“言い訳”にも？
  - 自社だけが取り組むとライバルに負けてしまうのでは？
    - 「囚人のジレンマ」的状況が発生する危険性

⇒ 企業の自発的な行動が社会の目標達成に近づく (alignする) ような  
ルール作りを政府は心がけるべき (×直接的な介入)